

一葉松
連葉松

よべるなるべし、木はあか松たちなるものにして、一葉なるも七葉なるも交りたれば、盆栽の五葉の類なるべし、李唐の俗孔雀松とよべるものならん本草一家言

〔甲斐國史百二十三〕産物及製造松略○中 一葉松 酒折社中ニ在リ、異品ナリ、

〔古今要覽稿草木〕連葉松

連葉松は、攝津國勝曼院にあり、葉の本一ツにして半より末二ツにわかる、と和訓いへり、その状をたしくみずといへども、江戸にて一葉松といふを見るに、二葉ひしとよりつきて、一葉のごとく見ゆるものなり、その中に葉の中比までは風にあへば、わかれて二葉にみゆるもあり、またその中にも風にあたりてもままりよく、はなれざるもあり、されば全く一葉にはあらざるなり、和訓栞云、津の國勝曼院は施藥院の舊地といふ、連葉の松あり、葉の本は一本にして、半から二ツにわかれたり、

落葉松

〔大和本草十一〕圖木落葉松 和名フジマツ。河間府志及衡岳志ニ出ヅ、冬ハ葉ヲツ花紫赤色ナリ、青霜子ノ種ニ似タリ、葉ハ五葉ノ松ニ似タリ、ミジカシ、松ハ常葉ナルニ、一類ニテ冬葉落ルハメヅラシ、富士山ニ多キ故ニ富士松ト云、信濃ニモ多シ、

〔草木育種後編下品〕藥落葉松志 山中に栽て生長し易し、人家庭へ植て愛すべし、材を用ゆべし、

木ノミ榊ノミを蝦夷にてエブリコ、蘭人は留飲、又小便を通ずる藥とす、

〔古今要覽稿草木〕ふじ松

ふじ松は富士山中に多く生ずるを以てまか名付たり、また日光山中にも多し、故に或は日光松ともいふ、本草綱目啓蒙唐畫に見えたるまつに似たるを以て、俗にからまつと藥名備考いへり、西土にていふ落葉松なり、本草また金錢松とも物品云、

〔和漢三才圖會八十二〕香木落葉松 富士松俗 布之末豆